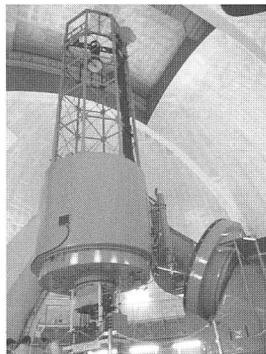




行ってみよう、研究最前線の天文台 岡山天体物理観測所

岡山天体物理観測所は、言わずと知れた日本最大級の188cm反射望遠鏡を備えた国立天文台の施設です。昭和35年(1960年)に東京大学東京天文台の附属施設として開所して以来、長らく日本で一番大きな望遠鏡として活躍してきました。現在では、

ハワイのマウナケア山頂上にある国立天文台ハワイ観測所の「すばる望遠鏡」が口径8.2mで日本一の大きさを誇り、国内においても西はりま天文台公園の「なゆた望遠鏡」が口径2mなので、主鏡の大きさでは一番でなくなりました。しかし鏡筒の長さは9mもあり、こちらはなゆた望遠鏡よりも長くなっています。そのため望遠鏡を設置しているドームも大きく、近くで見た姿は圧巻です。全体の大きさを見れば、日本最大級の望遠鏡



であることに違いありません。現在でも系外惑星やガンマ線バーストの観測など、天文学の最前線の研究が行われています。

天文台は普段は昼間の間、窓越しに188cm反射望遠鏡を見学することが可能です。ただし、鏡の蒸着作業中など見学停止になることもあります。また年に2回、188cm反射望遠鏡を使つての特別観望会も行われています。応募は抽選となりますので、申込み方法についてはあらかじめホームページ等で確認して下さい。

望遠鏡が設置されている竹林寺山からの眺望は非常によく、遠く瀬戸内海の島々を見渡すことができます。敷地内には岡山天文博物館があり、プラネタリウムと展示室が設置されています。博物館には太陽観測室もあり、晴天時には望遠鏡で太陽を観測できます。

天文台への交通はJR山陽本線の鴨方駅からバス、またはタクシーとなります。しかしバスは一日数便しかありませんのでご注意下さい。

ちなみに科学館の4Fには、天文台で以前使用されていた188cm望遠鏡の操作卓が展示してあります。科学館にお越しの際はご覧下さい。

江越 航(科学館学芸員)